

## 2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月8日

上場会社名 岩谷産業株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 8088 URL <https://www.iwatani.co.jp/>  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 間島 寛  
 問合せ先責任者(役職名) 経理部長 (氏名) 松尾 哲夫 (TEL) 06-7637-3325  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 ( 機関投資家・アナリスト向け )

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	655,788	36.8	23,781	△8.0	29,628	△3.5	19,266	△1.7
2022年3月期第3四半期	479,424	22.0	25,853	76.7	30,715	66.3	19,600	61.5

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 24,422百万円(14.1%) 2022年3月期第3四半期 21,394百万円(1.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	334.94	—
2022年3月期第3四半期	340.78	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	664,235	299,602	43.5
2022年3月期	558,479	280,307	48.4

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 288,826百万円 2022年3月期 270,128百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	—	—	85.00	85.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	85.00	85.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	840,000	21.7	40,000	△0.2	46,500	0.2	30,000	0.1	521.53

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2023年3月期3Q	58,561,649株	2022年3月期	58,561,649株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	1,036,728株	2022年3月期	1,045,396株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2023年3月期3Q	57,522,252株	2022年3月期3Q	57,516,476株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	8
(企業結合等関係)	9
3. 補足情報	10
2023年3月期第3四半期実績(連結)	10
(1) 損益計算書	10
(2) LPガス輸入価格変動要因(市況要因)を除いた経常利益	10
(3) LPガス輸入価格の推移	10
(4) セグメント情報	10
(5) LPガス・産業ガス売上高・売上数量	11
(6) 財政状態	11
(7) 投資の状況	11
(8) PLAN23 重要事業指標	11
(9) (参考) 個別業績の概要	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における日本経済は、急激な為替変動や物価上昇により先行き不透明感はあるものの、新型コロナウイルス感染症対策による行動制限の緩和に伴い個人消費が持ち直すとともに、設備投資が堅調に推移したことで、緩やかに回復しました。

このような状況のもと、当社グループは中期経営計画「PLAN23」の基本方針である「脱炭素社会に向けた戦略投資の強化」と「デジタル化の推進」に取り組みました。

脱炭素社会の実現に向けては、名古屋港近郊における廃プラスチック由来の低炭素水素製造に関する基本合意書を協力企業と締結しました。資源リサイクルの促進と低炭素水素の製造につながるサプライチェーンの構築を図ります。また、水素需要の創出を目的に、LPガスや都市ガスとの水素混焼バーナーや、水素ガスを使用して鋼板を切断する水素切断機の販売を開始しました。

総合エネルギー事業では、タイにカセットこんろ製造工場の建設を進めており、海外での事業拡大を図る中、東南アジア市場での販売強化に向け、安定供給体制を構築してまいります。

産業ガス事業では、米国北西部のモンタナ州で産業ガスの製造・販売会社を買収し、米国内でエアセパレートガスの取り扱いを開始するとともに、事業エリアの拡大を図りました。

なお、LPガスの市況については、輸入価格が前年同四半期に上昇していた一方で、当四半期においては下落基調で推移したことから、大幅な減益要因となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績については、売上高6,557億88百万円（前年同期比1,763億63百万円の増収）、営業利益237億81百万円（同20億72百万円の減益）、経常利益296億28百万円（同10億86百万円の減益）、親会社株主に帰属する四半期純利益192億66百万円（同3億33百万円の減益）となりました。

なお、当社グループの事業構造はエネルギー関連商品を主力としており、季節変動による影響を大きく受ける傾向にあります。LPガスの消費量は、気温や水温の影響を受けるため、販売量は夏季に減少し、冬季に増加します。このため当社グループは利益が下半期に偏る収益構造を有しています。

セグメント別の経営成績は次のとおりです。

**【総合エネルギー事業】**

総合エネルギー事業は、LPガス輸入価格が高値で推移したことや、新規連結の影響もあり、民生用・工業用LPガスの販売が増加しました。一方で、LPガスの小売部門では収益性が改善したものの、輸入価格が下落傾向となる中、市況要因が前年同期比で大幅なマイナス（前年同期比95億12百万円の減益）となり減益となりました。

この結果、当事業分野の売上高は2,756億29百万円（同591億62百万円の増収）、営業利益は57億84百万円（同78億15百万円の減益）となりました。

**【産業ガス・機械事業】**

産業ガス・機械事業は、エアセパレートガスについては、電子部品業界向けを中心に販売数量が減少したことに加え、電力料金の上昇により製造コストが増加しました。水素事業は、液化水素の販売は伸長しましたが、水素ステーション増設に伴う運営費用が増加しました。特殊ガスについては、半導体ガス等が堅調だったことに加え、ヘリウムは世界的な需給ひっ迫により市況が上昇する中、安定供給に努めました。

この結果、当事業分野の売上高は1,707億84百万円（前年同期比358億11百万円の増収）、営業利益は112億41百万円（同23億21百万円の増益）となりました。

【マテリアル事業】

マテリアル事業は、ミネラルサンドについてはサプライチェーンの混乱により市況が高止まりする中、引き続き安定供給に努めたことで増収となりました。ステンレスは新規顧客向けに販売が増加し、金属加工品もエアコン向けを中心に堅調に推移しました。また、次世代自動車向け二次電池材料や低環境負荷PET樹脂、バイオマス燃料等の環境商品が伸長しました。

この結果、当事業分野の売上高は1,844億86百万円（前年同期比770億20百万円の増収）、営業利益は91億7百万円（同44億23百万円の増益）となりました。

【自然産業事業】

自然産業事業は、業務用や一般消費者向け冷凍食品の販売が回復基調で推移しました。一方で、農業設備の販売が低調に推移したことに加え、種豚の出荷頭数減少と飼料価格の高騰により減益となりました。

この結果、当事業分野の売上高は215億30百万円（前年同期比44億23百万円の増収）、営業利益は2億80百万円（同2億63百万円の減益）となりました。

【その他】

売上高は33億57百万円（前年同期比54百万円の減収）、営業利益は10億75百万円（同8百万円の増益）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①総資産

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ1,057億55百万円増加の6,642億35百万円となりました。これは、受取手形、売掛金及び契約資産が320億62百万円、有形固定資産が187億22百万円、新規連結の影響によりおのれんが176億11百万円、商品及び製品が158億48百万円それぞれ増加したこと等によるものです。

②負債

当第3四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末と比べ864億61百万円増加の3,646億33百万円となりました。これは、短期借入金が215億6百万円、社債が200億円、長期借入金が166億29百万円、支払手形及び買掛金が163億31百万円それぞれ増加したこと等によるものです。

なお、当第3四半期連結会計期間末のリース債務等を含めた有利子負債額は、前連結会計年度末と比べ592億82百万円増加の1,704億42百万円となりました。

③純資産

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末と比べ192億94百万円増加の2,996億2百万円となりました。これは、利益剰余金が143億72百万円、為替換算調整勘定が69億75百万円それぞれ増加したこと等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しについては、景気動向やLPガス輸入価格の変動等が業績に影響を与える可能性があります。2022年11月9日発表の業績予想を変更していません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	29,975	31,560
受取手形、売掛金及び契約資産	131,094	163,156
電子記録債権	20,781	24,042
商品及び製品	45,734	61,582
仕掛品	4,022	8,127
原材料及び貯蔵品	6,381	8,616
その他	21,631	27,454
貸倒引当金	△151	△194
流動資産合計	259,471	324,346
固定資産		
有形固定資産		
土地	68,115	74,167
その他（純額）	117,631	130,301
有形固定資産合計	185,747	204,469
無形固定資産		
のれん	12,229	29,840
その他	3,949	5,604
無形固定資産合計	16,179	35,445
投資その他の資産		
投資有価証券	79,791	77,720
その他	17,849	22,809
貸倒引当金	△559	△556
投資その他の資産合計	97,081	99,974
固定資産合計	299,008	339,889
資産合計	558,479	664,235

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	66,480	82,812
電子記録債務	30,777	39,008
短期借入金	32,343	53,850
未払法人税等	8,518	2,998
契約負債	4,286	7,259
賞与引当金	5,389	3,169
その他	38,504	44,845
流動負債合計	186,300	233,944
固定負債		
社債	10,000	30,000
長期借入金	55,093	71,722
役員退職慰労引当金	1,518	1,251
退職給付に係る負債	5,524	6,717
その他	19,735	20,996
固定負債合計	91,872	130,689
負債合計	278,172	364,633
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	35,096	35,096
資本剰余金	31,809	31,898
利益剰余金	176,672	191,045
自己株式	△1,528	△1,523
株主資本合計	242,050	256,517
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	22,450	21,059
繰延ヘッジ損益	2,635	1,374
為替換算調整勘定	2,478	9,453
退職給付に係る調整累計額	513	422
その他の包括利益累計額合計	28,078	32,309
非支配株主持分	10,179	10,775
純資産合計	280,307	299,602
負債純資産合計	558,479	664,235

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	479,424	655,788
売上原価	341,696	505,101
売上総利益	137,727	150,687
販売費及び一般管理費		
運搬費	20,135	22,486
貸倒引当金繰入額	9	29
給料手当及び賞与	31,894	35,005
賞与引当金繰入額	2,404	3,026
退職給付費用	1,276	1,531
役員退職慰労引当金繰入額	143	117
その他	56,011	64,708
販売費及び一般管理費合計	111,874	126,906
営業利益	25,853	23,781
営業外収益		
受取利息	290	357
受取配当金	1,087	1,364
為替差益	290	569
持分法による投資利益	476	876
補助金収入	1,218	1,479
その他	2,445	2,575
営業外収益合計	5,808	7,223
営業外費用		
支払利息	604	860
その他	341	515
営業外費用合計	945	1,375
経常利益	30,715	29,628
特別利益		
固定資産売却益	136	262
投資有価証券売却益	611	172
補助金収入	41	106
特別利益合計	789	541
特別損失		
固定資産売却損	493	29
固定資産除却損	162	568
減損損失	3	73
投資有価証券評価損	—	0
固定資産圧縮損	41	106
ゴルフ会員権売却損	24	—
特別損失合計	724	777
税金等調整前四半期純利益	30,780	29,392
法人税等	10,506	9,260
四半期純利益	20,274	20,132
非支配株主に帰属する四半期純利益	673	865
親会社株主に帰属する四半期純利益	19,600	19,266



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	20,274	20,132
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△883	△1,415
繰延ヘッジ損益	△179	△1,253
為替換算調整勘定	2,143	7,042
退職給付に係る調整額	△41	△213
持分法適用会社に対する持分相当額	81	130
その他の包括利益合計	1,120	4,289
四半期包括利益	21,394	24,422
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	20,599	23,287
非支配株主に係る四半期包括利益	795	1,135

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	総合 エネルギー 事業	産業ガス・ 機械事業	マテリアル 事業	自然産業 事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	216,466	134,972	107,465	17,107	476,012	3,412	479,424	—	479,424
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	3,612	1,959	1,174	31	6,778	16,628	23,407	△23,407	—
計	220,079	136,932	108,640	17,139	482,791	20,040	502,831	△23,407	479,424
セグメント利益 又は損失 (△)	13,600	8,920	4,683	544	27,748	1,067	28,815	△2,961	25,853

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、金融、保険、運送、情報処理等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額は、各セグメントに配分していない全社費用及びセグメント間取引消去額が含まれております。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	総合 エネルギー 事業	産業ガス・ 機械事業	マテリアル 事業	自然産業 事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	275,629	170,784	184,486	21,530	652,430	3,357	655,788	—	655,788
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	3,988	3,740	1,645	30	9,404	17,424	26,829	△26,829	—
計	279,617	174,524	186,131	21,560	661,835	20,782	682,617	△26,829	655,788
セグメント利益 又は損失 (△)	5,784	11,241	9,107	280	26,414	1,075	27,490	△3,709	23,781

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、金融、保険、運送、情報処理等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額は、各セグメントに配分していない全社費用及びセグメント間取引消去額が含まれております。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「産業ガス・機械事業」セグメントにおいて、Aspen Air U.S., LLCの持分を取得し、連結子会社といたしました。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては3,354百万円であります。なお、のれんは、当第3四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に配分された金額であります。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

当社の連結子会社であるIWATANI CORPORATION OF AMERICAは2022年12月23日付にて持分譲渡契約を締結し、同日付でAspen Air U.S., LLCの持分を取得いたしました。

1 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 Aspen Air U.S., LLC

事業の内容 エアセパレートガス（酸素・窒素・アルゴン）の製造・販売

(2) 企業結合を行った主な理由

Aspen Air U.S., LLCの持分取得により、米国内で初となるエアセパレートガスの製造・販売事業に参入し、米国におけるさらなる事業拡大及び収益力強化を図ることができるものと判断し、持分取得を行うことといたしました。

(3) 企業結合日

2022年12月23日

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする持分取得

(5) 結合後企業の名称

変更はありません。

(6) 取得した持分比率

100%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社の連結子会社であるIWATANI CORPORATION OF AMERICAが現金を対価として持分を取得したことによります。

2 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

当第3四半期連結累計期間は、貸借対照表のみを連結しているため、被取得企業の業績は含まれておりません。

3 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	39百万米ドル
取得原価		39百万米ドル

4 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザリーに関する報酬・手数料等 46百万円

5 発生したのれんは、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれんは、金額

3,354百万円

(2) 発生原因

取得原価が受け入れた資産及び引き受けた負債に配分された純額を上回ったため、その差額をのれんとして計上しております。なお、当第3四半期連結会計期間末において取得原価の配分は完了しておらず、のれんは暫定的に配分された金額です。

(3) 償却方法及び償却期間

効果の発現する期間にわたって均等償却いたします。なお、償却期間については精査中であります。

3. 補足情報

2023年3月期第3四半期 実績 (連結)

(億円未満切捨て)

(1)【損益計算書】

(単位:億円)

	前第3四半期	当第3四半期	増減額	増減率	通期業績予想	決算の概況
売上高	4,794	6,557	1,763	36.8%	8,400	LPガス輸入価格が高値で推移したことや、各種市況上昇への対応を着実に進めたことにより、全セグメントで増収 また、過去最高の売上高を達成  主力商品の販売が堅調に推移するも、LPガス市況要因が大幅なマイナスとなったことで、営業利益以下の利益項目で減益
売上総利益	1,377	1,506	129	9.4%	—	
営業利益	258	237	△ 20	△ 8.0%	400	
経常利益	307	296	△ 10	△ 3.5%	465	
親会社株主に帰属する四半期純利益	196	192	△ 3	△ 1.7%	300	

※通期業績予想は、2022年11月9日に公表した数値を表示しております。

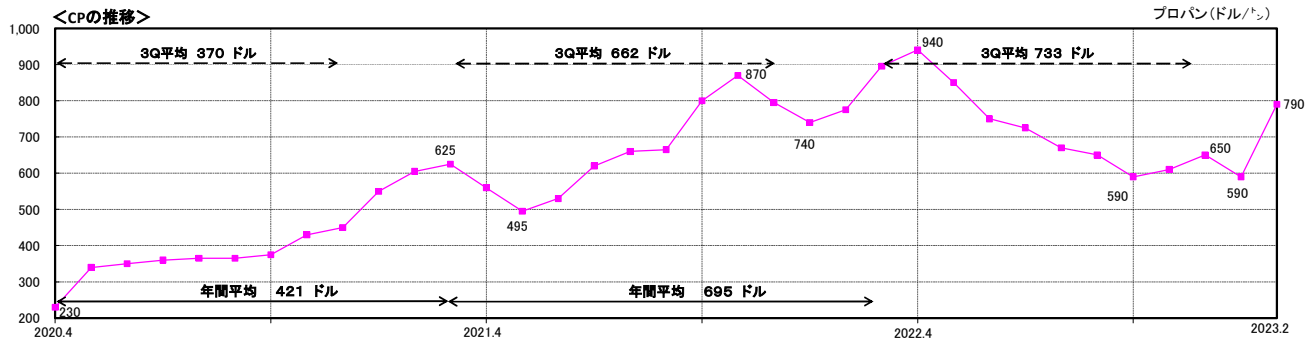
(2)【LPガス輸入価格変動要因(市況要因)を除いた経常利益】

(単位:億円)

	前第3四半期	当第3四半期	増減額	増減率	通期業績予想	経常利益の概況
経常利益	307	296	△ 10	△ 3.5%	465	・当第3四半期では23億円の減益要因が発生 前年同期比△95億円  ・市況要因を除く経常利益は320億円で、過去最高の利益水準
市況要因	71	△ 23	△ 95	—	5	
市況要因を除く経常利益	236	320	84	35.7%	459	

※LPガスの輸入から販売までの期間は比較的長期であることから、LPガス輸入価格の急激な変動により輸入価格が上昇局面の場合は輸入価格の安いLPガス在庫を高い卸売価格で販売することにより増益要因となる一方、下落局面の場合は輸入価格の高いLPガス在庫を安い卸売価格で販売することにより減益要因となり、短期的に当社グループの業績に影響を及ぼす原因となるため、市況要因を除く経常利益を記載しております。

(3)【LPガス輸入価格の推移】



(4)【セグメント情報】

(単位:億円)

		前第3四半期	当第3四半期	増減額	増減率	セグメントの概況
総合エネルギー事業	売上高	2,164	2,756	591	27.3%	・LPガスの輸入価格上昇及び新規連結の影響により増収 ・LPガス小売部門の収益性改善 ・LPガスの市況要因がマイナス
	営業利益	136	57	△ 78	△ 57.5%	
産業ガス・機械事業	売上高	1,349	1,707	358	26.5%	・エアセパレートガスは電力料金の上昇により製造コストが増加 ・水素は液化水素の販売が伸長するも、水素ステーション運営費用が増加 ・特殊ガスは半導体ガス等が堅調、ヘリウムは安定供給に注力
	営業利益	89	112	23	26.0%	
マテリアル事業	売上高	1,074	1,844	770	71.7%	・ミネラルサンドは市況が高止まりする中、安定供給に努め増収 ・ステンレスの販売は増加、金属加工品は堅調に推移 ・次世代自動車向け二次電池材料や低環境負荷PET樹脂、バイオマス燃料等の環境商品が伸長
	営業利益	46	91	44	94.5%	
自然産業事業	売上高	171	215	44	25.9%	・業務用、一般消費者向け冷凍食品の販売が回復基調で推移 ・農業設備の販売は低調に推移 ・種豚は出荷頭数減少及び飼料価格高騰
	営業利益	5	2	△ 2	△ 48.4%	
その他	売上高	34	33	△ 0	△ 1.6%	
	営業利益	△ 18	△ 26	△ 7	—	

※「売上高」は、外部顧客への売上高を表示しております。

※「その他」は、「その他」の事業セグメントと「調整額」の合計を表示しております。

(5)【LPガス・産業ガス売上高・売上数量】

	売上数量 (単位:千トン)				売上高 (単位:億円)			
	前第3四半期	当第3四半期	増減額	増減率	前第3四半期	当第3四半期	増減額	増減率
国内民生用	719	844	124	17.3%	999	1,364	365	36.6%
国内工業用	271	296	24	9.2%	269	361	92	34.2%
LPガス(国内計)	990	1,140	149	15.1%	1,268	1,726	457	36.1%
LPガス合計	1,004	1,151	147	14.7%	1,281	1,741	460	35.9%
各種産業ガス	—	—	—	—	789	975	186	23.6%

(6)【財政状態】

(単位:億円)

	前期末	当第3四半期末	前期末比
総資産	5,584	6,642	1,057
自己資本	2,701	2,888	186
有利子負債	1,111	1,704	592
ネット有利子負債	811	1,388	576
自己資本比率	48.4%	43.5%	△ 4.9pt
有利子負債依存度	19.9%	25.6%	5.7pt
有利子負債倍率	0.41 倍	0.59 倍	0.18pt
ネット有利子負債倍率	0.30 倍	0.48 倍	0.18pt

(7)【投資の状況】

(単位:億円)

セグメント別	当第3四半期	年間計画
総合エネルギー事業	150	207
産業ガス・機械事業	318	338
マテリアル事業	31	124
自然産業事業	7	27
その他	26	74
投資額	535	770
減価償却費	192	257

※有形固定資産・無形固定資産(のれん含む)・投資有価証券等を表示しております。  
(当第3四半期の有形固定資産の投資額は210億円)

※「その他」は、「その他」の事業セグメントと「調整額」の合計を表示しております。

(単位:億円)

(8)【PLAN23 重要事業指標】

		前第3四半期	当第3四半期	PLAN23 目標値
総合エネルギー 事業	LPガス直売顧客数	102 万戸	110 万戸	110 万戸
	カセットこんろ 販売数量	3,248 千台	3,194 千台	6,500 千台
	カセットボンベ 販売数量	110 百万本	117 百万本	180 百万本
産業ガス・機械 事業	エアセパレートガス 販売数量	12.5 億m <sup>3</sup>	12.0 億m <sup>3</sup>	17 億m <sup>3</sup>
	液化水素販売数量	53 百万m <sup>3</sup>	57 百万m <sup>3</sup>	90 百万m <sup>3</sup>

※当第3四半期末のLPガス直売顧客数には㈱エネライフの株式取得による顧客数の増加が反映されております。

PLAN23分類	当第3四半期	年間計画
水素エネルギー社会の推進	206	224
成長投資	291	458
保守・修繕など	37	88
投資額	535	770

(9) (参考)【個別業績の概要】

(損益計算書)

(単位:億円)

	前第3四半期	当第3四半期	増減額	増減率
売上高	3,200	4,218	1,017	31.8%
営業利益	155	70	△ 85	△ 54.7%
経常利益	254	174	△ 80	△ 31.5%
四半期純利益	194	132	△ 62	△ 32.2%

(財政状態)

(単位:億円)

	前期末	当第3四半期末	前期末比
総資産	3,867	4,384	516
自己資本	1,917	1,973	56
自己資本比率	49.6%	45.0%	△ 4.6pt